に對するに決し露軍の諸縱隊盡く渾河の南に出づるの前必ず之に其攻擊を加へ得べきを信ぜり何れにするも彼は敵の主力を索め其何れにか之を發見するに拘らず非常なる鋭氣を以て之に其打擊を加ふるに決せり是れ大膽なる決心にして且つクロパトキンに取り頗る其不便を感せしめたるなりしなり

（十五日所論完）

二十八年二月十七日稿

ダイムスの日露戰爭批評（百五十五）

沙河の會戰（前遺二四）

（十月十五日所論つゞき）

露國の失敗

然るに第一回の發動は露軍に依りて行はれ成効に至るの豫備的行動は之に依りて達せらるゝを得たり即ち二回の猛烈なる攻擊に依りて其左翼は本溪湖の附近及び同村の北に接する太嶺の附近に於て日本軍の陣地を奪取しコサック兵及び步兵より成る一隊を太子河を渡り機に及びて本溪湖、細河沿にある日本守備隊間の交通を遮斷するを得たり露軍の行動をして成効せしめんとするには太嶺及び本溪湖を占領するを頗る必要なり何となれば之を占領するに依りて初めて左縱隊の大部隊太子河平原を利用して遼陽に下り以て北方よりする其本攻擊に共働するに至るゝを得べきを以てなり然るも經戰の功を積める黑木の兵は此等最も重要なる地點にありて其陣地を確持し十日增援隊の着するに至りて遂に其奪はれたる地を回復するを得たり尙ほ河南に發遣されたる日本の遊擊縱隊あり亦露軍の河を渡りて當時嶺く其本軍隊に投合するを得たるものを覺ひ之を驅逐するに成効せり本溪湖の此失敗遂にクロパトキンの計畫を破壞するに至りたるものにして二方より相共同して其攻擊を加へんとする露國の豫期を防止するに至れり尙ほ大山は之に依りて其危險に陷りたる一側面を救ふを得黑木の能く戰場の決勝的部分外に露の三軍團を牽制するを得るを信じて比較的安全に其中央軍及び左翼軍を以て其攻勢的計畫を遂行するを得たり

十日及十一日は全日中全正面に於て戰鬪行はれたり日本指揮官の目的は本溪湖の守備隊を其軸として右方に轉回し露軍の右翼背に出で敵軍の全部を其退却線外に驅逐し東方に之を壓迫せんとするにありたるゝと明なり奥將軍左翼軍を率ゐて其攻擊を開始し忽ちにして其前面にある露軍を十里河に驅攘せり十一日露軍增援を受くるに至りたりと雖も尙ほ日本軍は其頑强なる戰鬪に依りて各地點に勝利を得殊に黑木の前面に在ては夕刻に至り敵をして遂に抗戰の力を失ひ退却を初めしむるに至れり野津將軍は中央軍を率ゐ變はる〳〵其右方及び左方にある友軍と共同し十一日の夜に至りて尙ほ其攻擊を繼續し初めて茲に露軍の砲を鹵獲せり此間に於て奥は其左側に增援を受けたり日本の勝利の規模と性質とは一に繫かり彼軍の勇氣に存す十一日に至るまで此部分の戰場に於て勝敗の決未だ現るゝに至らざりし然るも同日の黃昏より十三日の拂曉に至る間に於て左翼軍その目的を實行し夜襲に依りて露軍の右翼を沙河の線に擊退せり同地には露軍その防禦工事を有す野津將軍及び其中央軍も亦十二日午後二時に至りて敵の其陣地を放棄せるを發見せり奥將軍の行動特に重要の性質を帶び居たるものなるが如し其三箇縱隊を以て二十五門の砲を鹵獲し得たるは戰場の此部分に於ける戰鬪如何はかりの成効なりしか人をして明に之を推想するを得せしむるものなり戰鬪は十三日に至りて繼續し此日クロパトキン將軍より報を以て其皇帝に電奏を行ふと能はざりし彼は軍に其退却を云へり尙彼の稱して「本陣地」より「前衛陣地」を支持するの必要に出でたるを云々せるは即ち總豫備隊の既に戰鬪に參加せしめられ多少とも其損害に接したるを表明する者なりとす べし

十三日夕に於ける露軍の形勢は實に頗る危殆なりし彼等は戰場の各部面に於て盡く擊退され大損害を受け少くも卅八門の砲は之を其敵手に付せり奥はマレンゴー（ナポレオンの戰場）にドセー（佛國の將）の莫那合なる率側を行ひたる後に於けるサンサーの如く其之に對抗する軍の大部分よりも已先づ敵の退却線路上にありて橋梁に接近するを得たり今聊か其時機を後れたらんには露軍の退却は遂に潰亂となるに至りたるべきなりクロパトキンは要するに事情の許せス唯一の命令を發したるなり即ち曰く軍隊は十四日中如何なる價額を拔七ても其地歩を保持すべしと此命令は其右翼に於て別して遵守されざるべからざりし何となれば若し退却の止むべからざるに至りたる場合其中央軍及び左翼渾河の橋梁を利用するを得その渡沙點を占むるを得んとするには此右翼に於ける頑强なる防戰に依りて掩護されざるべからざるを以てなり

我等は尙ほ明確なる材料を有せず事に慎重ならんことを欲せば何人も其勝敗如何を語る前に於て先づ之を得ざるべからず然れども對戰一週日を通じて露軍の成効全くなを見るあと能はず露兵の數りたる重大なる損失に依りて之を察すれば軍神の判決頗倒するに至るべしとは斷じて之を信ずるあと能はず露軍は其盡力を行ひ且つ頗る勇敢に之に行ひたり然るも其靈力は明に其効を失せり此風に滿ちたる劇如何なる大詰を以て終はらんとするや更に日を待つて確むべきは唯だ此點あるのみなりとす

（十五日所論完）

三十八年二月十八日時事

タイムスの日露戰爭批評（百五十六）

沙河の會戰（補遺）（五）

（十月十八日軍事投書家所論）

露軍の退却

滿洲の大戰場より遠したる最近の報は遂に露軍の敗北をして疑なきに至らしめたり少なくも一萬の露兵死斃、戰場に委棄され各部面に於て露帝の軍隊匆忙退却中なりと云ふ

此迨の戰鬪に依りて之を見るに詳報遂するに至らば死者一人に對するに四人乃至六人の傷者あるを示すを常に其例とせり是を以つてか露軍の損害を計算し捕虜を除きて其數五萬に超ゆと爲す決して不當にあらざるべしクロパトキン將軍滿洲の軍隊は其至當にグリペンベルグの隊に屬すべきものに至るまで兵れよび砲臺くを出だして之を戰場に致したるみと既に明白なるを以て戰場に存したる露軍の戰鬪員を軍刀小銃二十五萬挺、砲九百門以下に計算するみと斷じて不可能なり依りて十月十四日の分を併せ同日に至るまでの損害戰鬪に參加したる兵數の二割に達せるものなるみと殆ど疑を容れず一切の事實明白なるに至らば此數字あるひは寧ろ增加するみとあるべし

十月十二日金曜日後に於ける戰鬪の進行に關しては クロパトキン反覆して其十三日及び十三日後に堅く其地歩を守持すべきを各部に命令したるを確言するに依り其だしく人をして判斷に苦しむしむるものあり然れ共報道は迅速に世界を廻りて當馳す中には人を誤らしめんとして傳へられたるものなき能はず十三日の朝に於て露國將軍既に局の終はれるを知り攻擊の失敗したるを悟れるは少くも顏る明白なるに似たりスタッケルベルグ及びレンチンカムプの指揮下に太子河に於て試みられたる韓回運動は大損害を受けて全く失敗に終はれりザルバイエッフ、イッノッフの兩將軍は野津の前に敗退せざるべからざるに至り倚は此部分に於ける敵の成効は其擴く擴張したる露軍の戰線をして中斷されんとするの危險に陷らしめたり倚は露軍の右翼に於てクロパトキン將軍は親ら沙河の線を把獲せんとする奧將軍の決死的計畫を目擊し此地點に於て苟も失敗せば全軍の災害遂に必ず免れざるを察したらざるべからず

其然らざるを確言するに關せず十三日に於て第六軍團を除くの外軍の各單位戰鬪に加はりたるは殆ど明白にしてクロパトキン切めて其目的を無事に保存せんとを欲したるものならんも此軍團の進軍を以てするも倚ほ勝利を保證する能はざるものたりしは亦明白なり斯くの如き陰鬱なる情態の下にあり且つクロパトキン戰場の何れの部分よりも一の好報に接するみとなくして遂に十三日の正午に至り退却の決意を行ひたるは疑ふべからざるに似たり

軍の危險なる狀態に見て露軍の左翼先づ退却し中央のザルバイエッフ太子河よりする兵の其東方に歸着するに至る迄其陣地を堅持せざるべからざるものたる必要なり倚ほ沙河にある露軍右翼に至りては中央露軍の其序次を追ひ撤退を行ふに至る十曜日の夜に至るまで如何なる損害をも忍びて其地歩を守持せざるべからざるものたる固よりなりとす其後に至りても倚ほ猛烈なる奧その攻擊を續めざるに於ては渾河を渡りての露軍右翼の退却甚だしき困難に接せざるべからず又主として騎兵より成る强大なる殿衛部隊その陣地を守持し各地點に日本の司令官を拘束し歩砲兵れよび輜重に退却の時を得せしむるを必要なりとす

日本軍の追擊

我等は今露國以外の種々の出所より本事件その後の結果につきて之が脈絡を探らんみとを欲す十三日夜に於て露軍の左翼軍團は騎兵を其陣地に留めて渾瀋に退却し徹宵急行進を行ひ二十四時間後に至り其隊をして危險外に脫せしむるを得たり十四日午後に至るまで黑木は其鳥の既に飛び去りたるを發見する能はざりし大山元帥の報ずる所に據れば是に於て露軍の兩側面に動搖の兆ありを見追擊隊即ち編成されたりと云ふレンチンカムプのコサック兵忽ち其馬に跨り馬脚の續くべき限り其途に急ぎたるは疑を容るべからず此世界にありて何事も偶然に依りて學ばるべきものなりとせば露軍最も此時に至りて退却の名人と成るに至りたらざるべからず近世の狀況にありて一陣地を保持する敵の兵力强弱如何を明むるが如く亦困難なるものあるべからず黑木は一時その目を瞞まされたり實際之と同一事情の下にありて南阿非利加に於て我等の同一運命に接したるみと如何に多かりしや之を回顧せば我等また之に非難を加ふるみと能はざるなり中央にありてサルバイエッフ其席次を以て十四日に於て其退却を初め此日野津は其兵を沙河の北に進め黑木また其兵を擧げて急行し强行進の後野津の右方に聯繫するを得たるが如し我等は關院宮及び太子河以南の露軍につきて何等の報に接せず然るも河南の露軍また コサック隊等の掩護を受けて其退却の機會を得たるものならん

みの退却の成効すると否とは一に沙河に於ける軍隊の防禦如何に於て繫かれり十三日夜日本軍は之に接觸せり奧果たして此側命的地點を蹴破するを得るや如何若戰の後奉天街道に於ける露國軍團の中心は遂に遮斷されたり倚ほ露軍右翼に於て も他の危險なる側面攻擊をその効を奏せり此部分にありてはビルデルリング將軍その指揮を行ひ其下に第十、第十七の歐露軍團を有せり或は第一軍團をも亦有したるならん第六西比利亞軍團豫備隊として若干縱後方に存したる日本の攻擊に依り破られたるものは明に第十七軍團なるべし沙河堡附近に於ける激戰の後再び其戰を起みしたるものは即ち第六軍團ならん沙河堡は同夜中數回奪はれ奪還され結局露軍の手中に存留せり

十四日奧將軍沙河の線に其攻擊を繼續し其右縱隊は午後一時黃花甸附近の高地を占領し其中央縱隊は沙河堡南方の丘陵に其陣地を定め其左縱隊は沙河を渡り數回の逆襲を擊退せり其翌夜は此方面靜穩に經過せり斯の如くにして露軍の左翼及中央は後方に其退却を行ふに卅六時間の餘裕を得たり

十四日は大雨戰後の例に從ひ雨沛大然として至り戰場を泥し道路は深く泥の埋む所となり一切の運動は遂に行ふべからざるに至れり双方の兵また日夜を別たず五日間に亘りて連續その戰鬪を行ひたるの結果殆ど疲憊の狀に陷りたらざるべからず然るに關せず不撓の日本軍倚ほ其目的を强行し十五日夕に至り頑强なる抵抗ありしに關せず遂に沙河堡及びリマン屯を略するを得たり